

# 日坂小学校・東山口小学校統合準備委員会（第5回総務部会） 協議録

日時	令和7年11月26日(水) 19:00～21:00
場所	東山口地域生涯学習センター
出席者	委員 21名 東山口小学校教頭、日坂小学校教頭 事務局 教育長、教育部長、教育政策課長、学校再編室長、学校再編係長、主任、主事補
内容	
1	開 会
2	あいさつ（教育長） <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前回は、学校名の変更について議論いただき、各委員の想いをしっかりと受け取らせていただいた。その上で、教育委員会としては、子どもたちや保護者、地域の皆様に、「統合して良かった」と思っていただけのように、今後も計画を立て、学校と共に準備を進めていきたいと考えている。</li> <li>■ 11月15日に開催したかけがわ教育の日では、名古屋大学の内田教授が、「エビデンスで考える学校改革」というテーマで講演された。その中で、「教育は無敵だが教員は有限だ」という発言があった。学校改革の必要性を市民や関係団体の皆様に知っていただけたと感じている。委員の皆様にも、オンライン配信を観ていただくことで、学校現場が置かれている状況をご理解いただけるのではないかと思います。</li> <li>■ 現在、11月議会が行われている。先週金曜日の会派質問では、財政状況の厳しさから、現在進めている学校再編を止めるべきではないかという意見が出た。また、今日の一般質問でも、学校現場の現状を心配する声が上がった。</li> <li>■ 教育委員会としては、子どもたちが健やかに成長できる学習環境を第一に考えており、学校再編や統合をより良い関係で進めていきたいと考えている。また、教員が、子どもたちの学習指導や生活指導に注力できるような環境を整えたいと考えている。今回の統合でも、そのような状況も踏まえた上で、皆様のご理解とご協力をいただきたいと思う。</li> </ul>
3	報告事項 <p>(1)校名の変更について</p> <p>資料1：近隣市町における学校統合時の校名の扱いについて</p> <p>資料2：小学校統合に係る費用（概算）</p> <p>資料3：学校を統合することに伴う業務増 ＜事務局＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前回の総務部会では、それまでの議論を踏まえて、子どもたちが新しいスタートを切るために、どのような取り組みを行うべきか議論していただいた。また、限られた予算や時間、人員等を考慮した上で、出された意見の優先順位を検討していただく予定だった。ただ、事務局の説明不足により、皆さんを混乱させてしまったこともあり、議論の進め方について意見をいただいた。また、様々な取り組みの1つとして校名の変更も含まれていたが、優先して検討するべきという意見も出された。その結果、協議の中盤からは、校名に関する議論に焦点が当てられた。</li> <li>■ 協議の終盤では、統合や校名の変更に伴う諸課題について、これまで以上に踏み込んだ内容の議論が行われた。この点について、これまでの総務部会の中で説明が足りなかったという意見をいただいた。そのため、統合に係る予算や負担について、改めて説明させていただきたいと思う。</li> </ul>

- 資料1では、統合時の学校名の扱いについて、近隣市町の事例をまとめている。校名を変更した学校は2校あり、いずれも校舎の新設や新設移転した事例である。多くの場合、統合前の学校敷地施設を引き継ぐ形で、校名を変更していない。
- 資料2では、統合に係る費用をまとめている。備品引越費用や廃棄物処理費、データ移行費等を合わせて、約640万円を見込んでいる。校名を変更した場合は、校旗や体育館の緞帳の新調費等、追加で約330万円かかることが見込まれている。
- 資料3では、学校の統合に伴い、業務の増加が予想される事項をまとめている。大きく分けると、事前交流や通学支援等の「子どもに関係すること」、PTAや学校運営協議会等の「保護者に関係すること」、学校教育目標や教育課程、危機管理等の「学校の内部事務に関係すること」の3つに分類される。そして、4つ目として、校名変更にかかる業務について記載している。校名を変更する場合、通常の実務業務に加えて、全ての児童を対象に、学校内部書類やICT機材の修正・設定変更、金融機関の預金口座や公共料金の使用者登録等の名義変更、全ての学校備品のシール張り替え等が必要である。

<委員意見>

- 校名変更にかかる業務負担について説明があったが、栄川学園で小中一貫校を整備する際も、同じような負担がかかるのか。

<事務局>

- 基本的には、同じような手続きが発生する。

<委員意見>

- それならば、今回の統合で校名を変更しても、小中一貫校を整備する際に変更しても、その負担の大きさは変わらないという解釈で良いか。
  - ⇒ 説明の通り、小学校の統合で校名を変更した事例は、校舎の新設や新設移転の場合に限られている。そのような場合であれば、様々な手続きが必然的に発生するため、それに合わせて校名を変更しているのだと思う。しかし、基本的には、統合前の学校敷地施設を引き継ぐ形で校名を決めている事例が大半である。教育委員会としても、統合にかかる負担を最小限に抑えながら進めていきたいと考えている。
- 校歌だけでも変更することは可能か。おそらく、東山口小学校の校歌には、日坂・東山地区のことが歌詞に含まれていないと思う。子どもたちが思い入れを持てるような校歌にして欲しい。
  - ⇒ 校歌を変更することは可能だと考えている。ただ、東山口小学校の校歌を編曲する場合は、作詞・作曲者の許可が必要である。また、新しく校歌を作成する場合は、どのように作詞・作曲を行うか改めて相談させていただく必要がある。

<部会長>

- 前回の協議では、特定の委員に発言が偏ってしまったため、今回は、一人一人の意見を伺いたいと思う。発言時間は、一人あたり2分を予定している。

<委員意見>

- 例えば、日坂・東山地区がどのような思いを持って要望書を提出したのか、それに対して東山口地区がどのように思っているのかなど、議論の土台となるようなことを話し合わなければ、最初に発言する委員の負担が大きくなってしまわないか。

#### <部会長>

- 発表を始める前に、個人で意見を整理する時間を取る。その後、席順で発表していただく。順番が回ってきた時に発言できなければ、後で発表していただいても構わない。
- 今日の協議では、全員に発表していただくことが大切だと感じている。前回の協議では、時間の都合上、発表できない委員がいた。そのため、公平性を持って進めたい。また、要望書については、既に委員に配布している。地区の想いについても、これまでの議論の中で何度も伺っている。

#### <委員意見>

- 東山口地区では、統合について、昨年末から今年2月にかけて議論してきた。その結果、教育委員会と日坂・東山地区に通知している通り、東山口小学校に日坂小学校が編入することが基本であると結論づけている。そのため、東山口小学校の校名・校歌・校章を引き続き用いることが望ましいと考えている。また、校名の変更に多大な予算や労力がかかるため、そちらを子どもたちの学びのために充てて欲しいと思う。
- 自分の子どもが6年生の時に統合を迎える。日坂・東山地区の子どもが思い入れを持てる学校になって欲しいと思う。校名を変えない場合でも、統合して良かったと思えるような何かがあって欲しいと思う。個人としては、将来的に小中一貫校になるのなら、今校名を変えても良いと思う部分もあるが、地区ごとに様々な想いがあるので、それらを踏まえた上で、良い落とし所を見い出すことができれば良い。
- 日東中学校と東山口中学校の統合の際に、当時の地域の方が「栄川」という名前を残してくれた。これは、地域にとって大きな財産だと思うので、校名を検討しても良いと思う。さかがわ幼稚園の整備は、地域に対して失礼と言って良いほど短期間で進められた。その際も、「栄川」という名前を付けたため、やはり校名は大切だと思う。掛川市では、全国に先駆けて、小学校3年生までの成績の廃止という前例の無いことを進めようとしている。それにも関わらず、前例に従って校名を検討しないのであれば、矛盾しているのではないか。やはり、地域が何を望んでいるのか議論するべきだと思う。要望書では、「両校の児童が同じスタートラインに立ちたい」ということを記載している。その上で、校名は重要だと思うため、是非検討していただきたい。
- 東山口小学校では、9月に統合に関する保護者説明会が開催された。保護者からは、子どもたちが誇りに思える学校になって欲しいという意見も出ていた。それを踏まえると、校名を議論することに一定の理解があるのかもしれない。ただ、近年の少子化を考えると、将来的には栄川学園を維持できない可能性があるように感じる。他学区との統合の可能性もある。そのようなことも踏まえて、学校名を議論する必要があると思う。
- 私は、掛川市に転居して10年ほどになる。3人の子どもが東山口小学校に通っている。そのため、地域の想いを汲み取ることが難しい立場ではある。最近、足を骨折したのだが、歩行の際に不便を感じる箇所が多々ある。多様な児童が通う学校施設を考えたとき、子どもたちが不便を感じる箇所がたくさんあると思う。限られた予算を何に充てるか考えたとき、子どもたちが安心して過ごせる教育環境の整備に使うべきだと思う。ただ、校歌の検討は、良い意見だと思う。私たちが母校の校歌を覚えているように、子どもたちにとっても大切なものになると思う。

- 3地区で新しい学校をつくるため、「栄川」という地域にふさわしい校名にするべきだ。予算の都合もあると思うが、市議会には、私たちの想いを踏まえた上で、判断していただきたい。また、校名を変更しなくても、校歌だけは変えたいと思う。
- 統合を迎えたときに、日坂・東山地区の児童が少しでも入りやすい環境になって欲しい。新しい学校のスタートラインを考えたとき、校名が子どもたちにとって一番わかりやすいように感じた。校名に執着しているのではない。子どもたちが新しいスタートを切れるように、何かしらの対策をして欲しいと思っている。子どもたちの中に、同じ学校で一緒に勉強していくという気持ちが根付いているのなら、そこまで気にする必要はないと思う。ただ、例えば、リーダーとして下級生を引っ張っていきたくて考えている6年生が、新しい環境で萎縮してしまい、上手くやっていけないようなことがあるかもしれない。そのように、子どもたちが我慢してしまう状況にならないで欲しいと思う。
- 両校の子どもたちが、統合後も安心して楽しく登校することが一番大切だと考えている。財政状況や少子化の話もあり、全体的に不確定な部分もあるのかなと感じている。先生方が、子どもたちのケアをしつつ、一緒に楽しく過ごしていただけるように、学校の負担をなるべく減らしたいと感じている。校名については、財政の話をしてしまったら、従うしかないと思っている。ただ、せっかく良い学校があるので、予算をかけなくても人数が増えるような取り組みを考えて欲しいと思う。大規模校に馴染めない児童を受け入れる小規模特例校のニュースを見たが、そのような取り組みも考えられるかもしれない。また、これまで保護者の意見を聴く機会があまり無かったと思う。保護者が統合に対して、どのように感じているのかを吸い上げる機会を設けて欲しいと思う。
- 「校名を変えたから良かった」ということにはならないと思う。子どもたちは、一緒に学校生活を送ることの楽しさを実感することで、統合が良かったと感じるのではないか。新設移転のように、完全に新しい学校をつくるのであれば、校名を検討しても良いと思う。しかし、場所や学校施設がそのままであるのに、校名だけが変わってしまったら、子どもたちも不自然に感じるのではないか。やはり、学校が楽しければ、子どもたちが校名を意識するようなことは無いと思う。日坂・東山地区の子どもたちが、スムーズに統合を迎えられるように、予算や労力をかけるべきだ。
- 私は、子どもの頃に、日坂小学校と東山小学校が統合を経験している。当時の様子を聴く機会があったが、統合に対して、大きな温度差が地域にあったのだろうと感じている。私は、今回の統合を3地区の新たな出発と捉えており、希望を持って新しい学校をつくっていきたくて考えている。そのため、栄川小学校という校名が良いと考えている。
- 校名については、予算の問題があるため、執着するつもりはない。ただ、自分の子どもが、「統合したら日坂小学校が無くなっちゃうじゃん」と話していたので、子どもたちの意見を汲み取る機会を設けたいと思う。また、準備委員会での話し合いが進んでいないため、保護者から意見を汲み取り、それを基に話し合った方が良いのではないか。
- 校名変更の可否は、どちらでも良いと考えている。東山口小学校に通っても、子どもたちが一緒に楽しく過ごして欲しいと思う。また、大人になったときに思い出せるものがあれば良いと思っている。例えば、栄川中学校には応援歌があり、日坂小学校にも日坂音頭がある。子どもたちは、これから長い期間を一緒に過ごすことになると思うので、大人になったときに、「そういえばこんなものがあったね」と言い合えるような、記憶に残るものをつくることができれば良いと思う。

- 保護者としては、日坂・東山地区の子どもたちが、新しい環境で肩身の狭い思いせず。過ごして欲しいと思っている。予算や労力の使い方に関する意見や、校名に関する意見も出された中で、校歌を変えたらどうかという意見が出たことは素敵なことだと思う。東山口地区から予算や労力の話ばかりされると、日坂・東山地区のせいで負担が増えているように受け取られてしまう。地域がそのように思っていたら、子どもたちの中にも壁ができてしまうと思う。費用のことばかりが話題にされると気持ちが沈んでしまうため、楽しくワクワクする統合にしたい。
- これまでの説明で、校名変更に様々な負担がかかることが理解できた。また、統合まで1年近くに迫っており、スケジュール的にも厳しいのではないかと思う。子どもたちの学習環境や学校環境を整備するために予算を充てて欲しいと思う。
- 学校運営協議会に参加した際に、学校教育が大きな転換期を迎えているという話を伺った。今後も学校の負担が増加することが予想され、それに加えて、統合に向けた様々な擦り合わせも必要になると思う。その中で、気づいた不安要素を取り除くことに寄り添って欲しいと思う。そのためにも、アンケートを行い、保護者や子どもたちの意見を汲み取る機会を設けても良いのではないか。また、結果を共有することができれば、誰がどのような考えを持っているのか、お互いに把握できる機会になるのではないか。
- 地域としては、学校が無くなることに対する様々な思いを汲み取って欲しいと考えている。アンケートの実施は、以前から意見が挙がっていたと思うが、なかなか進まないと感じていた。原泉小学校が西郷小学校に統合した際に、先生方が非常に気を遣ったという話を伺った。統合に向けて、暗い思いをしてはいけないし、楽しく進めたいと思うので、保護者の意見を聴く機会を設けるべきだと思う。
- 東山口地区では、日坂・東山地区から要望書が出された後に、統合準備委員会を立ち上げ、総勢19名の委員により、統合に関する協議を行った。協議では、子どもたちの教育に関することや、それに携わる保護者や教育者などに関する意見が多く出された。その結果、地区としては、日坂小学校が東山口小学校に編入することを基本として、現在の東山口小学校の校名・校歌・校章をそのまま用いることが望ましいと結論づけている。これは、区長会やまちづくり協議会の企画委員会、東山口小学校の準備委員会でも了承されており、地区の広報にも掲載した。したがって、東山口地区の住民は、校名が変更しないという認識を持っているはずだ。このような事情を踏まえた上で、校名が変更しないという合意を基に協議を進めなければ、難しいと考えている。
- 子どもたちが新しいスタートラインを切るために、校名を変更し、楽しく平等な環境で学校生活を送って欲しい。校名を変更しない場合でも、せめて校歌だけは変えていただき、3地区の思いを込めて欲しい。

<部会長>

- 校名変更について賛否の意見が出されたが、共通点もあると感じた。「新しいスタートラインを切れる何かが欲しい」、「嫌な思いをせず、統合して良かったと思えるようにしたい」、「子どもたちも先生も楽しいと思える統合」、「思い出に残る統合」等の意見が出された。これらは、校名変更の可否に関わらず、皆さんも大切だと感じているのではないか。
- 予算や労力、スケジュール面を考慮すると、校名変更が厳しいという意見も出された。

- また、新しいアイデアとして、保護者や子どもたちにアンケートを行い、統合に対する想いを汲み取るという意見が出された。さらに、応援歌をつくったり、校歌を変えたりすることで、3地区の想いが込められるのではないかという意見も出された。
- 地域としては、大切にしてきた小学校が無くなるのが寂しいと感じており、そのような想いを市議会に届けて欲しいという意見も出された。一方で、子どもたちは、学校が楽しければ、校名を気にしないのではないかという意見も出された。
- これまで議論を重ねてきて、校名に対して様々な想いがあるということを感じている。ただ、「子どもたちにとって良い統合にしたい」という想いは、共通しているのだと思う。新たなスタートを切るためには、校名の変更以外にも方法があるのではないかという意見も出された。皆さんの意見をまとめると、全員が一致して、校名を議論したいという結論ではないと思う。

#### <教育部長>

- 今回初めて参加させていただいたが、日坂・東山地区の校名に対する想いについては、以前から話を聞いており、承知している。そのような地域の想いをどうしていくのが今後の課題になると思う。その点については、ここで回答することができないため、持ち帰って検討させていただきたい。
- 財政の話がされると議論しにくいという意見もいただいた。ただ、掛川市の財政は厳しい状況であり、教育予算に関する指摘も多く上がっている。11月議会では、原野谷学園小中一貫校事業を見直すべきではないかという代表質問もされている。栄川学園は、原野谷学園よりも児童生徒数が少ないという現状がある。将来的には、他学区との統合が議論に上がる可能性も否定できないため、皆さんには、そのようなことも視野に、議論していただければと考えている。
- 原泉小学校の場合は、地域が複式学級での教育活動に限界を感じていたため、西郷小学校との統合に反対するということは無かった。むしろ、地域から子育て世代の流出を防ぐためには、統合するしか選択肢が無いと判断された。
- 原田小学校の場合も、複式学級の発生が予想されていた。地域としては、学校が無くなることよりも、教育環境を理由に子育て世代が流出してしまうことの方がリスクだと判断し、原谷小学校との統合を決定した。
- そのため、校名については、両地区とも話題に上がらなかった。ただ、少人数の子どもたちが大きな学校に通学することになるため、受け入れ先の学校の様子を心配する声は多く挙がっていた。
- 校名変更に関し約330万円の費用がかかるという説明をさせていただいた。この金額は、学校サポーター約2人分の予算と同じである。学校サポーターは、子どもたちや教員の支援などを行っており、学校運営に必須の存在である。ただ、近年の財政状況から、これらにかかる人件費も見直すべきという意見が出ている。教育委員会としては、学校現場を安定させ、子どもたちに負担を掛けないようにしたいと考えている。そのため、子どもたちが楽しく学校生活を送るために、予算を使わせていただきたいと考えている。

#### <教育長>

- 先ほど申し上げた通り、学校現場の現状は非常に厳しい。東山口小学校も例外では無く、今年度も学校サポーターの配置や教員の入れ替えなどで対応している状況だ。学校の負担を軽減するために、通知表の廃止などの業務改革を進めている。

- 統廃合の関係で、日坂小学校と東山口小学校の両校に学校サポーターを配置しているが、統合後も継続して配置したいと考えている。教育委員会は、学校を守る立場であるため、そのような人件費にかかる予算を確保したいと考えている。
- 統合によって、現場の教職員に負担がかかることは確実である。せつくなので、両校の校長先生が、統合に向けてどのような想いを持っているのか伺いたいと思う。

<東山口小学校長>

- 協議に参加させていただき、皆さんの新しい学校をスタートさせたいという強い想いを感している。その想いは、とても大切にしたいと思っている。
- 統合に向けて、学校が何をすべきか考えたときに、両校の子どもたちがより良い教育を受けられるように力を注ぐべきだと感している。
- 統合は、大きな環境の変化であるため、子どもたちが不安に感することもあると思う。そのような不安を無くし、「学校に来ることが楽しい」、「統合して良かった」と感られるような学校づくりをする必要があると考えている。
- そのためにも、小小交流を行っている。来年度は、交流の時間数を増やす予定だ。ただ、時間は限られているため、有意義な交流ができるように、常に振り返りを行っている。これまでの経験を生かし、人間関係をさらに深め、充実した授業を実現するためには、教材研究が欠かせない。また、子どもたちが不安に感していることを解決できるように、子どもたちの声を聴くように心がけていた。
- また、教育課程を考える必要もある。学校教育目標だけでなく、行事やルール、慣習、委員会、係活動など、両校で異なることがたくさんある。それらを子どもたちの実態に合わせて変える必要がある。また、子どもたちが、新しい環境で萎縮してしまうのではないかという意見もいただいた。そのような負担が減らすために、対策を考える必要があると感している。
- 統合に向けて、東山口小学校の教員が、日坂小学校の子どもたちの理解を深めるために、子どもたちの様子を引き継ぐことも大切だと感している。
- 防災についても、学区が広がるため、全ての児童が安全に登下校できるように、防災マニュアルの見直しが必要だと感している。
- これらの検討事項をまとめるために、両校の職員が何度も話し合いを行う必要がある。学校としては、教育内容を充実させるためにも、そこに時間を掛けたいと考えている。
- 東山口小学校は小規模校であるため、他校と比べて職員が少ない。しかし、校務分掌は、大規模校も小規模校も変わらないため、一人あたりの仕事量が多い。その上で、統合に向けた事務作業を行うため、時間を生み出す必要がある。校名の変更に係る業務負担についても、初期の頃より明確化されてきた。統合に係る業務の中には、引越し作業のように、年度末にかけて負担が集中するものも多い。そのため、校名を変更する場合は、教職員の時間外勤務が大幅に増加することが予想される。学校の負担については、地域や保護者が協力することで軽減できないかという意見をいただいている。私は、皆さんからそのような意見をいただき、涙が出るほど嬉しかった。ただ、実は、教職員にしかできない業務がたくさんあることも、準備を進めていく中で明らかになってきた。
- 限られた時間の中で、優先順位を考えて進める必要がある。充実した教育を行うために、教職員の時間を確保したいと考えている。

- 予算に関しても、学校サポーターが配置されなければ、今の学校現場を維持することは難しい。東山口小学校にも様々な配慮が必要な児童が在籍しており、学校サポーターの支援は、学校にとって強い味方になっている。

#### <日坂小学校長>

- 日坂小学校に2年間勤めさせていただき、地区や保護者の皆さんの地域を愛する想いを強く感じている。そのため、校名を変えて欲しいという想いも、痛いほど理解している。
- 私は、今年度、全国へき地教育研究連盟の静岡県代表部長を務めており、他地域の校長先生ともお話をさせていただいた。お話を伺う中で、全国的な共通課題として、子どもの人数が減っており、統合に関する話し合いが各地で行われていること、そして、統合の際に校名を変更しない場合が大半であるという現状が明らかになった。
- ただ、どの地域でも、「新しい学校」という意識を持って統合したということは共通していた。子どもたちが新たに加わり、一緒に学校生活を送ることになるため、そのような想いを持って統合を迎えることが大切だと感じた。
- 校名の議論は、どこかで結論を出す必要がある。校長としては、早いうちに決着をつけ、授業準備や教育活動など、子どもたちのために、力を注いでいきたいという想いがある。
- 資料に載っている検討項目以外にも、子どもたちが主役となり、日坂小学校の思い出に残る行事を企画したいと考えている。来週は、子どもたちと一緒に、重点目標を考える予定だ。統合に向けて、自分たちでつくる学校を目指していきたいと考えている。
- 今後は、日坂小学校の良さを取り入れながらも、東山口小学校にスムーズに統合できるように、両校で時間をかけて擦り合わせを行う必要がある。子どもたちが安心して統合を迎えられるように、最大の配慮をしていきたいと考えている。
- やはり、地域の皆さんに協力していただくこと以外にも、負担のかかる部分が多々ある。それらを踏まえて、校名について結論を出す必要があると感じている。

#### <教育長>

- 教育委員会としては、子どもたちが安定して学校生活を送ることを最優先で考えている。また、遠距離通学支援についても検討する必要がある。皆さんにも、学校現場に様々な負担がかかることを理解していただけたのではないと思う。
- もし校名を変更する場合は、再来年度予算で行うことになる。教育予算を削らなければならない現状であるため、新たに補正予算を上げたとしても議会で可決される可能性は無いと思う。校名に拘るのであれば、令和9年4月の統合を延期する必要がある。
- 皆さんが一番願っていることは、子どもたちが一緒に楽しく、スムーズに学校生活を送ることだと思う。期限が迫っているため、教育委員会としては、校名を変更せずに、東山口小学校で新しいスタートを切れるように、環境を整えていきたいと考えている。
- 校歌については、この場で回答することが難しい。そのような意見もいただいた上で、東山口小学校で子どもたちが一緒になり、元気に明るく楽しく過ごせるような、新しい学校づくりを進めるということで、皆様にはご理解をいただきたい。

#### <委員意見>

- 今の教育長の話結論にするつもりなのか。発言時間に制限があり、十分に議論されていない状態で結論を出されても、納得できない。統合までの時間が限られているという意見もあるが、校名については大切な議論であるため、もう少し時間を掛けて、対策を考えるという形での議論をしたい。

<教育長>

- 教育委員会としては、学校現場の現状を踏まえると、校名を変更せずに統合した方が、子どもたちにとって望ましいのではないかと考えている。
- どうしても納得できないのであれば、検討していただいても構わないが、これ以上議論を引き延ばすなら、令和9年4月の統合は厳しいと考えている。統合を延期するしかない。

<委員意見>

- 私も、皆さんの意見を聴いた上で、議論が始まると思っていた。結論を出されたことに戸惑っている。
- 日坂小学校のあり方について検討が始まった頃から、学校再編計画の話も伺っていた。その際に、栄川学区が他の中学校区と合併する可能性を質問したら、そのようなことは考えていないという返答をいただいた。しかし、前回の総務部会で掛東学園との再編の話が出てきたため、市の方針が変わってきているように感じた。先ほど、原野谷学園の話もされていたが、先が不透明な学校再編計画を持ち出して「将来的に校名を考えると来るから、今回の統合で検討する必要が無い」と考えるのではなく、今の子どもたちが困らないように予算や労力をかけて欲しい。校名を変更して、わかりやすい形で新しい学校をスタートさせることが素敵だと考えており、保護者としては、そのような想いが大前提である。そのため、中立的な意見が多いから校名を変更しないと結論づけられることに納得できない。

<教育長>

- 議会でも、昨今の少子化を踏まえて、原野谷学園を含めた全体の計画を見直すべきではないかという質問が出された。現在、第I期に定められている原野谷学園、城東学園に着手しており、今後は掛東学園の協議に入っていく。その際、掛東学園から学区再編の話が出れば、栄川学園にも投げかけ、地域で協議する必要があると考えている。ただ、今回の統合は、学校再編の話とは別問題である。複式学級が発生している日坂小学校の現状を考えたとき、子どもたちのために、早い段階で統合した方が良いということで、皆さんに協議していただいている。
- 学区再編については、掛東学園の協議が始まっていないため、この場で回答できない。掛東学園の協議が始まらなければ、教育委員会としても動けない。

<委員意見>

- それなら、先の不透明な学校再編に費用や労力をかける前に、今の子どもたちを大事にして欲しい。おそらく、数年後の学校再編は、今の子どもたちに関係ないことだと思う。今回の統合のために、きちんと予算も労力もかけて欲しい。

<教育部長>

- 先ほど、当初から学校再編計画の説明が変わっているとのこと指摘をいただいた。
- 学校再編計画を策定した際に、現状の中学校区を変更せずに、小中一貫校を整備すると説明させていただいた。ただ、学校再編計画は、5年ごとに見直すことになっている。学区再編については、令和10年度に計画を見直す際、昨今の急激な人口減少を踏まえて検討される可能性があるということだ。教育委員会としては、従来の方針通りの説明をしており、状況に応じて計画を見直す可能性があるというように承知していただきたい。
- 今回の統合に関しても、予算や労力をかけることがなかなか難しいと考えている。

<委員意見>

- 納得できない。第1回の総務部会でも、校名について委員に聴く機会があったと思う。このような決め方なら、そのときの議論だけで終わっていたのではないか。第2回から第4回の議論は何だったのか。
- 議論が熟していないのに、教育委員会から結論が示されたことに対して納得できない。このような結論の出し方は、あまりにも拙速だ。
- 協議録に書かれている通り、校名については、第1回から継続して意見が出されている。決して、今回の協議で初めて議論したわけではない。統合に向けて、学校で交流事業をしていただいております、先生方にも大きな負担がかかっていることは事実だ。このような子どもたちの心のケアをどうしていくかを協議する上で、たまたま校名が焦点化されてしまっただけであり、これまでの議論が無駄になっているわけではない。
- これ以上、校名について議論を続けても、結論が出ないと思う。ただ、今回の協議では、校名を変更せず、子どもたちのために費用や労力をかけるべきだという意見が、大半を占めていたと思う。議論を重ねてきたことで、様々な事情を理解した上で、このような意見になってきたのだと思う。満場一致で決まることはないということを理解した上で進める必要があると思う。
- 意見を話ただけで、議論ができていないと思う。話し合いの方法を考えて欲しい。
- 予算の説明があったが、寄付金を募るなど、他から補填することで、実現のハードルが下がることはあるのか。

<教育部長>

- 予算面が解決できたとしても、学校現場の負担が変わるわけではない。校名を変更する場合は、膨大な事務作業が必要であり、実施主体にかかる負担を考慮する必要がある。
- 校歌については、著作権の問題があるが、現状のものを編曲する形であれば、実現性があると思う。いずれにしても、この場での回答はできないため、持ち帰って検討させていただきたい。

<委員意見>

- 今回の協議では、アンケートを行いたいという意見が多く出されたと思う。これまでの議論を踏まえたアンケートを取りまとめていただき、次回の総務部会までに実施したい。また、世帯ごとに用紙を配る方法では、全員の意見を吸い上げることができないので、一人ひとりの意見を反映できるような形で実施したい。アンケートの結果を踏まえて、次回の総務部会を行うことはできないか。
- このまま校名の議論を継続すれば、令和9年4月の統合に間に合わない可能性がある。皆さんも様々な想いを持っており、これまでの協議の中で、意見を出してきたと思う。そろそろ結論を出すべきだ。アンケートについても、質問項目を検討する必要があり、取りまとめにも時間がかかる。

<教育部長>

- 議論を踏まえたアンケートであるならば、校名を変更しない可能性が高いという前提で実施することになると思う。

<委員意見>

- それなら、実施する必要はないと思う。

<教育部長>

- 校名については、これまでも協議されてきたと思う。それを踏まえて、結論を出すべき時期が迫っているため、統合に係る諸課題について説明させていただいた。
- スケジュール的な問題もあり、ゼロベースで議論をやり直すことは難しい。これまでの協議を踏まえた上で、今後の進め方を検討させていただく。

<教育長>

- 皆さんには、スケジュールも考慮した上で検討していただきたいと考えている。校名に拘るのであれば、統合を延期するしかないと考えている。それが、子どもたちにとって良いことなのかも含めて、慎重に検討する必要がある。

(2)事務連絡

- 次回開催予定：1月21日（水）19:00～ 日坂地域生涯学習センター

4 閉 会